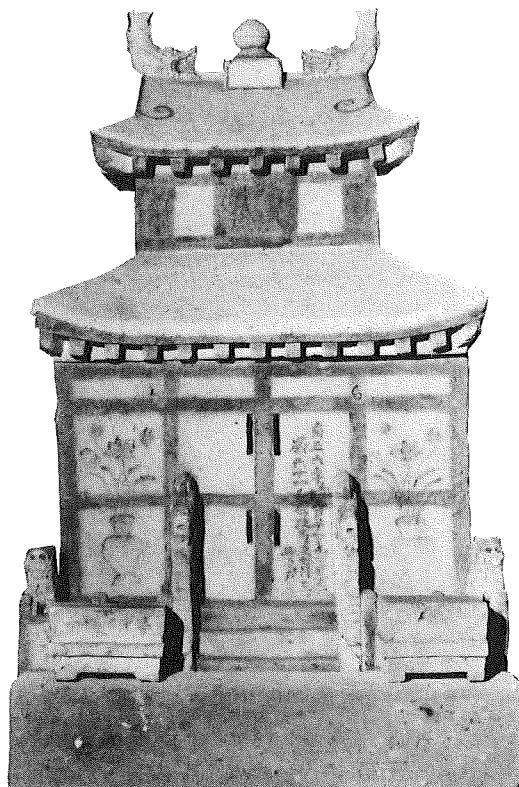


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 20



1987

沖縄県立博物館

序

この「沖縄県立博物館年報」No.20は、昭和61年度（昭和61年4月1日～同62年3月31日）の当館の事業報告書に相当するものです。沖縄の自然・歴史・文化を対象とする総合博物館として、種々の条件下で、当館がいかなる事業を実施してきたか、その概要が一覧できると思います。

昨年度、当館では大幅な常設展の展示替えを行いました。主たるねらいは、展示ストーリーをより明確にし、ディスプレイを改善することにありました。その結果、従来よりも一層整備された展示を実現できたのではないか、と自負しています。この展示替えに即して『沖縄県立博物館総合案内』（昭和62年4月1日）を刊行し、利用者の便に供することができるようになりましたが、『総合案内』の出版には財団法人・日本生命財団の全面的なご支援を賜り、また、編集には財団法人・千里文化財団出版部のご協力をいただきました。ここに謹んで感謝の意を表します。

企画展として恒例の新収蔵品展を実施し、10回目を数えた移動博物館は伊平屋村で開催しました。

入館者・利用者の方々のご要望に充分にお応えする体制はまだ整っていませんが、今後とも努力を積み上げていきたいと決意しています。当館の充実のために、ご助言、ご協力を寄せただければ幸いです。

昭和62年8月10日

沖縄県立博物館長 大城宗清

目 次

序.....	館長 大城宗清
I 概要	
1 沿革	1
2 施設・設備	3
3 予算	5
4 組織	6
II 入館者数	
1 入館者数	8
2 塚内外児童生徒学生団体見学者	9
III 展示活動	
1 常設展	11
2 企画展	14
3 移動博物館	16
IV 教育普及活動	
1 博物館文化講座	20
2 刊行物	21
V 調査研究活動	
1 調査研究	22
2 著作論文	25
VI 収蔵資料	
1 収蔵資料現在高	27
2 昭和61年度収蔵資料および目録	27
3 所蔵国県指定文化財	30
VII その他の活動	
1 資料貸出	31
2 煙蒸処理	31
3 沖縄県博物館協会	32
4 沖縄県立博物館友の会	32
VIII 日誌抄	33
IX 関係条例規則抄録	37

※表紙写真 石厨子

I 概 要

1 沿革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年には「琉球政府立博物館」と改称。また、41年には現敷地に新館を建設して移転する。47年の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

〔主な事項〕

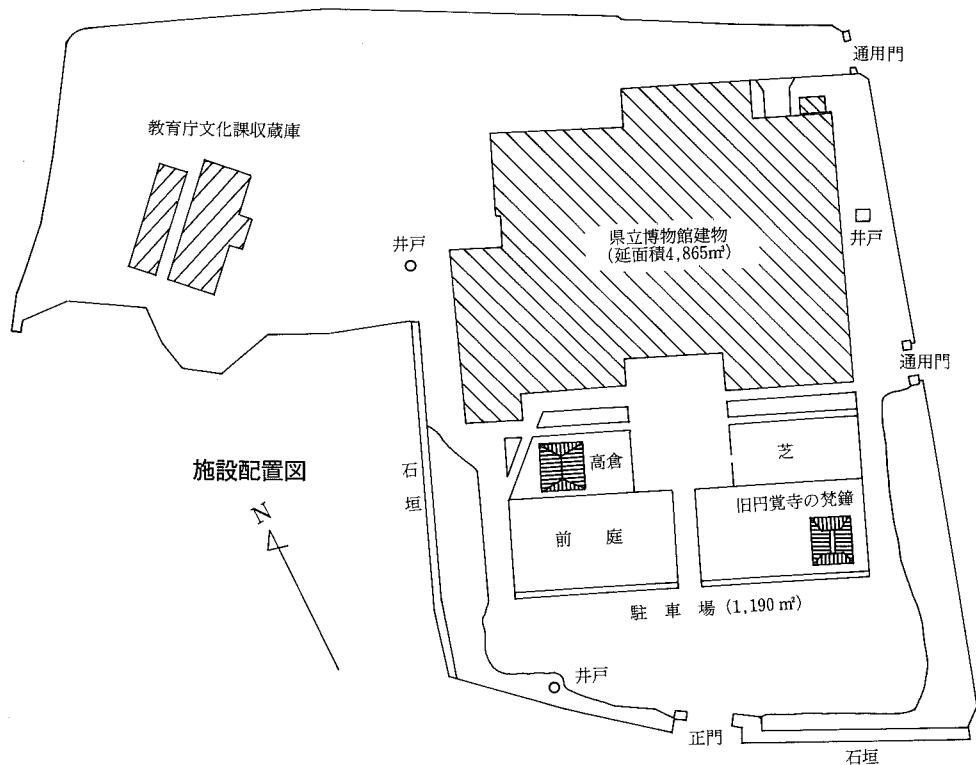
-
- | | |
|-------------|---|
| 昭和21年（1946） | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年（1947） | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年（1953） | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年（1955） | 9月、琉球政府発足にともない首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年（1965） | この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。 |
| 昭和41年（1966） | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年（1972） | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。
5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年（1973） | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年（1976） | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年（1980） | 1月、特別展「日本の美——救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち——大恐龍展」開催。 |

- 昭和56年（1981） 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美——日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。
- 昭和57年（1982） 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展——熊本の歴史と文化」を共催する。
- 昭和58年（1983） 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美——風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて共催する。
- 昭和60年（1985） 11月、特別展「グスク——グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて——大嶺薰コレクション」を開催する。

歴代館長

〔東恩納博物館〕 大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	〔首里博物館〕 豊平 良顯（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）
原田 貞吉（昭和28・3～30・5） 山里 永吉（昭和30・8～33・8） 金城増次郎（昭和33・9～26・12） 大城 知善（昭和37・2～44・11） 外間 正幸（昭和44・12～56・3） 大城徳次郎（昭和56・4～58・3） 大城 立裕（昭和58・4～61・3） 大城 宗清（昭和61・4～）	

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積.....	11,267m ²
●建物のべ面積.....	4,865m ²
1階及び講堂部分	2,893
2階	1,571
地階	401
●展示面積.....	1,590m ²
1階	632
2階	958
●ロビー面積.....	256m ²
●収蔵庫面積.....	677m ²
●駐車場面積.....	1,190m ²
●庭園面積.....	1,612m ²
●講堂	632m ²

客席数630席(1階434、2階196)

●空調機能能力

ヒートポンプ式チーリングユニット	125,000kcal/h×2機
エアハンドリングユニット	7機
パッケージ型エアコン	
56,000kcal/h×1機	
28,000kcal/h×1機	
20,000kcal/h×2機	
8,400kcal/h×1機	

●変電室

電灯	1Φ 3W 30KV A×1機
電灯・動力	3Φ 4W 100KV A×1機
動力	3Φ 3W 250KV A×1機

●契約電力.....235kw

建物平面図および室名・面積

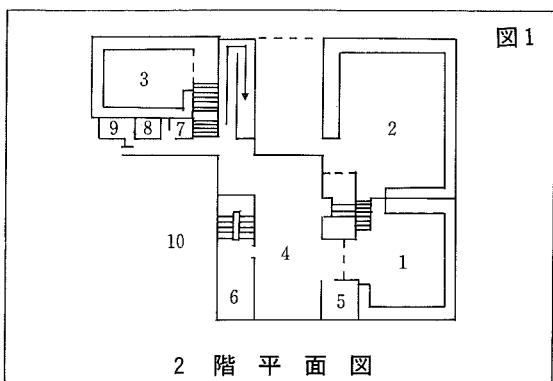


図1

< 2 階 >
番号

1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	ホール中2階	61

室名

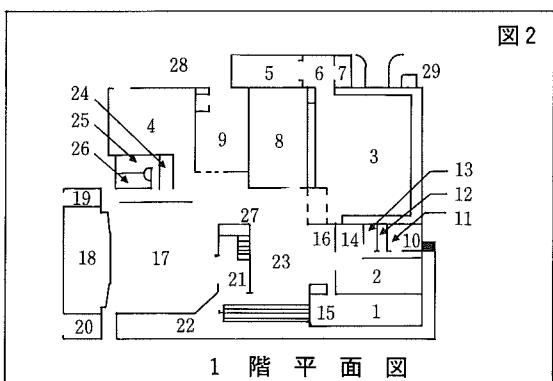


図2

< 1 階 >
番号

1	事務室	115m ²
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	扇子収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	首里城正殿模型	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	案内コーナー・友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

室名

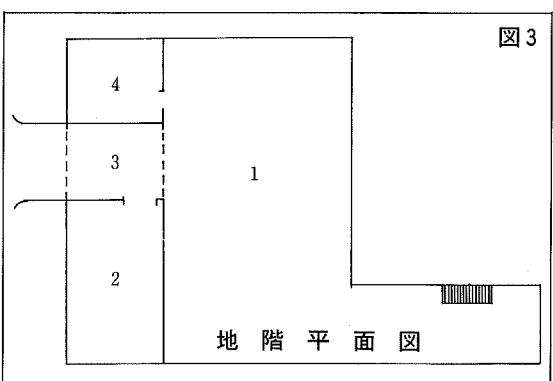


図3

< 地 階 >
番号

1	収蔵庫	285m ²
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

昭和61年度博物館費（決算）

単位：円

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	64,000	0	64,000
賃金	0	0	0
報償費	216,500	515,000	731,500
旅費	1,092,820	382,830	1,475,650
普通旅費	1,092,820	382,830	1,475,650
需要費	18,783,575	3,143,385	21,926,960
消耗品費	1,518,865	152,720	1,671,585
燃料費	34,153	0	34,153
(食料費)	68,850	10,000	78,850
印刷製本費	1,320,765	1,400,665	2,721,430
光熱水費	13,570,087	0	13,570,087
修繕費	2,270,855	1,580,000	3,850,855
役務費	1,498,922	1,625,520	3,124,442
通信運搬費	879,968	1,625,520	2,505,488
手数料	599,484	0	599,484
保険料	19,470	0	19,470
委託料	10,129,000	1,500,000	11,629,000
使用料及び賃借費	0	0	0
工事請負費	5,295,000	11,999,000	17,294,000
備品購入費	6,500,000	0	6,500,000
負担金補助及交付金	64,000	0	64,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	43,662,717	19,165,735	62,828,452

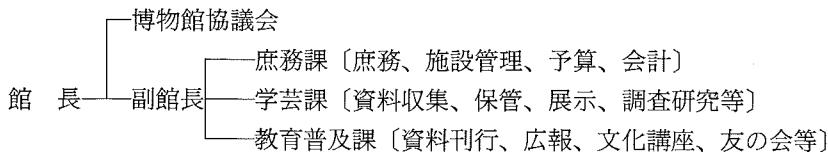
昭和61年度歳入状況（決算）

内訳 科目名	常設展	特別展
博物館使用料	5,620,756	0
建物使用料	35,360	0
小計	5,656,116	0
合計	5,656,116	

4 組 織

昭和62年5月1日現在の当館の組織は下記の通りである。

機 構



職員構成

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	大 城 宗 清	博物館業務の総理に関すること。
副 館 長	上江洲 均	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関するこ
庶務課長	村 山 勝 信	庶務課の統轄。庶務、施設管理、予算、事業に関するこ
主任	玉代勢 理 子	予算決算、会計事務に関するこ
主任	新 崎 文 子	歳入、庶務、人事、福利厚生に関するこ
技 師	平 田 典 夫	施設設備の管理に関するこ
学芸課長	知 念 勇	学芸業務の統轄及び考古資料に関するこ
主査	高 良 倉 吉	博物館資料の受入れ、整理分類及び歴史資料に関するこ
充指導主任	千木良 芳 範	総合調査・写真撮影、沖博協及び自然に関するこ
学芸員補	与那嶺 一 子	整理分類、保存及び美術工芸に関するこ
教育普及課長	日 越 国 昭	教育普及業務の統轄及び自然に関するこ
充指導主任	津波古 聰	教育普及、移動博物館、写真撮影、美術工芸に関するこ
主 事	松 本 隆	教育普及、文化講座、講演会及び民俗に関するこ

非常勤職員 (委嘱業務)	氏 名	担 当 業 務
教育普及補助員 〃	宇 良 みどり 平 良 典 子	展示の解説、昭和62年5月1日付 〃
受 付	西 平 節 子	受付、1階ロビー監視に関するこ
監 視	東 美智子	主として第1展示室の監視に関するこ
〃	照 屋 カ ツ	主として第2展示室の監視に関するこ
〃	西 平 勝 子	主として第3展示室と企画展示室の監視に関するこ
〃	喜屋武 トシ子	主として第4展示室の監視に関するこ
清 掃 員	渡慶次 柴 宝	清掃に関するこ

博物館友の会職員	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会庶務会計

人事異動

62年4月1日現在

職 員	氏 名	摘 要
< 転 出 >		
副 館 長	宜 保 榮治郎	玉城少年自然の家所長へ
学 芸 員	上江洲 敏夫	県立図書館主任専門員へ
主 事	上 間 尚 子	教育庁総務課秘書係へ
< 転 入 >		
主 査	高 良 倉 吉	県立図書館史料編集室専門員より
充 指 導 主 事	千木良 芳 範	県立糸満高校教諭(生物)より
主 事	新 崎 文 子	教育庁福利課福祉係より
主 事	松 本 隆	県自動車税事務所課税課より

博物館協議会名簿

	委 員 名	資 格	住 所
学 職 経 驚 者	安次富 長 昭 (会 長) 野 原 朝 秀 外 間 正 幸 外 間 政 彰	琉球大学教授 琉球大学教授 元県立博物館長 元那覇市立図書館長	那覇市首里石嶺町3-117-10 南風原町字新川30 那覇市首里当蔵町3-22-7 那覇市松尾2-2-6
学 校 教 育	酒 井 善 治 米 田 精 仁 新 垣 博	沖縄県小学校長会長 沖縄県中学校長会長 前沖縄県高等学校長会長	那覇市識名64 識名小学校 那覇市樋川2-8-1 神原中学校 糸満市糸満950
社 会 教 育	宮 里 悅 玉 寄 永 哲 新 城 紀 秀	前沖縄婦人連合会長 沖縄県子ども育成連合協議会 沖縄県社会教育委員会連絡協議会 長	那覇市大道172沖縄県婦人連合会 那覇市末吉町2-231 石川市石川2666-2

II 入館者数

1 入館者数

月別入館者数

内訳 年月	個 人				團 体				総 計				開館 日数	1 日 平均	
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計			
61年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 62年1月 2月 3月	(247)	(7)	(61)	(315)	(89)	(14)	(103)	(336)	(7)	(75)	(418)				
	4,130	256	617	5,003	538	808	851	2,197	4,668	1,064	1,468	7,200	25	304	
	(51)	(11)			(62)	(154)	(67)	(235)	(205)	(78)	(14)	(297)			
	3,800	96	363	4,259	1,281	527	1,624	3,432	5,081	623	1,987	7,691	25	320	
	(23)			(23)	(103)	(26)	(4)	(133)	(126)	(26)	(4)	(156)			
	2,410	53	367	2,830	842	421	595	1,858	3,252	474	962	4,688	19	255	
	(12)			(12)	(124)	(20)	(107)	(251)	(136)	(20)	(107)	(263)			
	3,900	483	778	5,161	627	1,013	128	1,768	4,527	1,496	906	6,929	27	266	
	(14)			(14)	(96)		(56)	(152)	(110)		(56)	(166)			
	6,051	795	1,888	8,734	877	112	794	1,783	6,928	907	2,682	10,517	26	411	
展示室改修工事のため休館															
(36)			(36)	(311)		(12)	(323)	(347)		(12)	(359)				
4,568	149	622	5,339	835	566	3,778	5,179	5,403	715	4,400	10,518	25	435		
(33)			(33)	(197)			(197)	(230)			(230)				
2,003	171	130	2,304	723	3,853	741	5,317	2,726	4,024	871	7,621	22	357		
(26)			(26)	(48)			(48)	(74)			(74)				
2,858	94	258	3,210	456	550	298	1,304	3,314	644	556	4,514	22	209		
(24)			(24)	(156)		(32)	(188)	(180)		(32)	(212)				
4,350		212	385	4,947	1,179	861	859	2,899	5,529	1,073	1,244	7,846	23	350	
(53)			(53)	(240)		(16)	(256)	(293)		(16)	(309)				
5,525	1,193	785	7,503	2,137	2,220	673	5,030	7,662	3,413	1,458	12,533	25	514		
計		(519)	(18)	(61)	(598)	(1,518)	(113)	(255)	(1,886)	(2,037)	(131)	(316)	(2,484)		
		39,595	3,502	6,193	49,290	9,495	10,931	10,341	30,767	49,090	14,433	16,534	80,057	239	345

() 内は無料扱い

曜日別入館者数 (無料扱い者を除く)

内訳 曜日	個 人				團 体				総 計				開館 日数	1 日 平均		
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計				
火	5,554	435	935	6,924	1,221	1,113	1,972	4,306	6,775	1,548	2,907	11,230	40	173	108	281
水	5,382	462	645	6,489	1,627	1,943	1,990	5,560	7,009	2,405	2,635	12,049	39	166	143	309
木	6,609	574	671	7,854	1,025	2,246	1,411	4,682	7,634	2,820	2,082	12,536	40	196	117	313
金	6,182	755	706	7,643	1,428	2,719	2,362	6,509	7,610	3,474	3,068	14,152	41	186	159	345
土	6,480	769	940	8,189	1,763	2,413	1,716	5,892	8,243	3,182	2,656	14,081	39	210	151	361
日	9,388	507	2,296	12,191	2,431	497	890	3,818	11,819	1,004	3,186	16,009	40	305	95	400
計	39,595	3,502	6,193	49,290	9,495	10,931	10,341	30,767	49,090	14,433	16,534	80,057	239	206	129	335

団体入館者数 (常設展)

年 月	県 内						県 外						國 外						總 計						
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生							
61年4月	1	26	2	72	2	426	5	524	16	452	6	736	4	423	26	1,611	2	60	1	2	3	62	34	2,197	
5月	16	661	1	36	8	916	25	1,613	8	620	3	491	7	685	18	1,796	—	—	1	23	1	23	44	3,432	
6月	16	607	2	131	16	519	34	1,257	6	168	1	290	1	70	8	528	1	67	—	1	6	2	73	44	1,858
7月	8	146		5	89	13	235	15	481	7	1,013	5	39	27	1,533	—	—	—	—	—	—	40	1,768		
8月	13	187	1	3	12	392	26	582	21	690	5	109	17	402	43	1,201	—	—	—	—	—	—	69	1,783	
9月																									
10月	3	102	2	66	39	3,778	44	3,946	18	711	5	500	—	23	1	1,211	1	22	—	1	22	68	5,179		
11月	3	102	2	66	39	3,778	44	3,946	18	711	5	500	—	23	1	1,211	1	22	—	1	23	1	23	45	5,317
12月	6	276	1	168	6	741	13	1,185	11	427	20	3,685	—	31	4,112	1	20	—	—	1	20	45	2,899		
62年1月	3	58	1	23	4	298	8	379	11	398	3	527	—	14	925	—	—	—	—	—	—	—	—	1,304	
2月	7	200	1	4	9	859	17	1,063	24	979	6	857	—	30	1,836	—	—	—	—	—	—	—	—	2,899	
3月	7	182	1	43	9	510	17	735	51	1,955	11	2,177	12	163	74	4,295	—	—	—	—	—	—	—	91	5,030
計	80	2,445	12	546	110	8,528	202	11,519	181	6,881	67	10,385	46	1,782	291	19,048	5	169	0	3	31	8	200	504	30,767

(9月～10月) 展示室改修工事のため休館

移動博物館入館者数（伊平屋村）

	小人	大人	合計
6月5日（土）	27	151	178
6日（日）	186	50	236
合計	213	201	414

2 県内外児童生徒学生団体見学者

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日の県内外の学校関係団体入館者の内訳は以下の通りである。

小学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	15	城北小学校	209名	11	1 屋部小学校	88名	11	20 馬天小学校 3年	86名
	18	松川小学校	228名	5	高原小学校	169名	//	屋我地小学校 6年	29名
5	1	与那原小学校	149名	//	城西小学校	25名	//	名護小学校 6年	168名
2	与那原東小学校	145名	6	漢那小学校	33名	//	大北小学校 6年	90名	
//	ステーリーハイツ・アメリカンスクール	28名	//	羽地小学校	88名	21	松田小学校	35名	
16	久米島小学校	50名	7	稲田小学校	33名	//	東江小学校	201名	
20	知名小学校（鹿児島県）	67名	//	久辺小学校	58名	22	辺土名小学校	65名	
25	平良第一小学校	322名	//	津嘉山小学校	171名	//	西小学校	51名	
27	西辺・宮原小学校	56名	//	宇栄原小学校	281名	12	5 金武小学校 6年	141名	
//	下地小学校	47名	//	嘉芸小学校	45名	6	城北小学校 5年	171名	
28	平良北小学校	124名	//	兼原小学校	185名	11	城南小学校 5年	40名	
30	清水小学校	62名	//	奥間小学校	28名	23	西原東小学校 6年	39名	
6	1 勝連小学校	27名	//	与那原東小学校	123名	1 10 真嘉比小学校 6年	111名		
//	久松小学校	33名	11	上本部小学校	60名	27	城西小学校 3年	185名	
2	西城小学校	56名	12	牧港小学校	150名	2 4 高良小学校 3年	185名		
3	狩俣小学校	27名	//	普天間小学校 4年	159名	7 壱屋小学校 3年	89名		
4	砂川小学校	57名	//	瀬底小学校 5・6年	32名	12 石嶺小学校 3年	173名		
11	上野小学校	61名	13	大宜味小学校 5・6年	24名	22 神原小学校 3年3組	40名		
12	宮良小学校	27名	14	佐敷小学校 3年	112名	28 松川小学校 3年	44名		
17	多良間小学校	30名	//	安慶田小学校 5年	215名	// 松島小学校 3年	162名		
19	下平川・佐吉・上城小学校（鹿児島県）	78名	15	伊是名小学校 6年	37名	// 城東小学校 3年	153名		
20	美崎小学校	58名	18	西原小学校 3年	175名	3 3 大名小学校	105名		
21	仲里小学校	37名	//	城前小学校 6年	150名	4 久茂地小学校 3年	96名		
11	1 久志・三原・天仁屋・嘉陽小学校	38名	20	大宮小学校 6年	180名	11 城南小学校 3年	101名		
//	瀬喜田小学校	28名	//	東小学校 6年	34名	17 古蔵小学校 3年	44名		

中学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	23	三橋中学校（福岡県）	308名	24	金久中学校（鹿児島県）	353名	11	具志頭中学校	138名
5	10	赤木名中学校（鹿児島県）	117名	29	蘇陽中学校（熊本県）	98名	12	嘉手納中学校	288名
15	赤徳中学校（鹿児島県）	40名	6 19	昭和薬科大附属中学校	91名	3	屋部中学校	87名	
16	成城学園中学校（東京都）	42名	11 5	糸満中学校	316名				

高等学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	2	知念高校	27名	12	北陸学院高校(石川県)	314名	2	鹿児島実業高校(鹿児島県)	33名
4	4	山陽女子高校(広島県)	44名	10	昭和薬科大附属高校	172名	21	星野女子高校(A)(埼玉県)	346名
15		神戸須磨ノ浦女子高校(兵庫県)	397名	〃	北陽高校(大阪府)	608名	22	星野女子高校(B)(埼玉県)	404名
26		野田学園高校(山口県)	188名	11	精華女子高校(A)(大阪府)	167名	〃	名護商業高校	21名
5	2	金沢中央高校(石川県)	43名	12	精華女子高校(B)(〃)	184名	3	大阪商大附属高校1班(大阪府)	186名
7	7	金沢二水高校(石川県)	237名	12	帝塚山学院泉ヶ丘高校(大阪府)	30名	5	大阪商大附属高校2班(大阪府)	190名
10		金沢二水高校(石川県)	233名	18	清風高校1~2班(大阪府)	582名	6	大阪商大附属高校3班(大阪府)	189名
6	14	東和高校(福岡県)	299名	19	清風高校3~4班(大阪府)	503名	10	首里高校	44名
7	1	九州産業高校1班(福岡県)	310名	20	西山高校1~2班(京都府)	289名	12	九州電機学園高校(福岡県)	211名
2		九州産業高校2班(福岡県)	405名	23	西山高校3~4班(京都府)	312名	〃	近畿大附属高校1班(大阪府)	261名
4		大森家政専門学校高等科(東京都)	34名	25	常葉学園高校(静岡県)	516名	13	近畿大附属高校2~3班(大阪府)	486名
11	6	富士学苑高校(山梨県)	213名	23	大阪高校1班(大阪府)	307名	〃	西武台高校(埼玉県)	362名
18		大崎中央高校(1)(宮城県)	91名	24	大阪高校2班(大阪府)	240名	14	近畿大附属高校4班(埼玉県)	233名
19		大崎中央高校(2)(宮崎県)	63名	30	首里高校	25名	17	近畿大附属高校女子部(大阪府)	40名
20		札幌女子高校(北海道)	127名						

大学及び専門学校

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	18	中央病院附属看護専門学校(新潟県)	41名	7	奈良家庭学園専門学校(奈良県)	35名	12	エトワール文化服装学院(岐阜県)	21名
20		東筑紫短期大被服科(福岡県)	65名	8	戸畠看護専門学校(福岡県)	28名	2	長野県農業大学校(長野県)	44名
25		文化服装学院(東京都)	31名	8	富山女子短期大学	48名	24	金沢経理専門学校(石川県)	38名
26		沖縄キリスト教短期大学	49名	11	沖縄キリスト教短期大学	50名	25	国学院大学(東京都)	29名
5	10	沖縄県立芸大	49名	28	長野県農業大学校(長野県)	34名	3	山陽女子短期大学(広島県)	76名
5	〃	沖縄キリスト教短期大学	39名	29	琉大教養部	21名	26	山梨英和短大白倉ゼミ(山梨県)	29名
6	6	フィリピン学生	30名	12	千代田工芸専門学校(A)(東京都)	48名			
7	22	那覇看護学校	22名	17	千代田工芸専門学校(B)(〃)	23名			

特殊学校その他

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	1	新南陽市空手道スポーツ少年団(山口県)	24名	7	育英義塾幼稚園	67名	22	垣花学童クラブ	25名
4		塙釜少年少女の翼(宮城県)	101名	30	城岳学童	21名	〃	砂辺仲よし子ども会	大7名 小44名
23		那覇養護学校	13名	31	めだかの兄弟(福岡県)	24名	24	沖縄市教育団組日の出会	大13名 小18名
〃		鏡原中特殊学級	4名	8	2 高志保子ども会	88名	11	那覇3団カブスカウト	小人25名
5	8	当蔵保育所	16名	5	松田小中学生	98名	11	県立沖縄療育園	22名
6	1	ボースカウト那覇10団カブスカウト隊	25名	10	さくら子ども会	47名	2	みぎわ保育園	19名
5		津波小学校特殊学級	5名	12	嘉手納北区PTA	50名	2	金武町四区子ども会	小人24名
8		少年野球宮里チーム	38名	13	北谷町公民館移動講座	28名	3	城岳小学校特殊学級	11名
7	3	森川養護学校小学部	23名	〃	ちびっこサマースクール(広島県)	50名	11	リズミー幼稚園	17名
4		森川養護学校筑大附属病院訪問学級	9名	8	兼城教育センター(幼児)	44名	3	与那原町江口PTA	小人73名
18		光幼児学園	34名	〃	北谷町公民館移動講座	45名	29	国場団地子ども会	小人32名
				19	恩納村子ども会	36名	〃	神奈川ガールスカウト49団小人21名	

III 展示活動

1 常設展

展示室概観

常設展は大幅な展示替えが行われた。工事は昭和61年9月10日から10月31日までの期間実施され、展示ストーリーの明確化、ディスプレイの整備が図られた。

展示室は1階に「歴史展示室」(地史・考古・歴史)・「自然史展示室」、2階にロビーを改装した「企画展示室」、「美術工芸展示室」、それに「民俗展示室」がある。各展示室を結ぶ基本的な観客導線は以上に述べた順序となっている。

歴史展示室（第1室）は、琉球列島の形成から先史時代・グスク時代と続き、その後に統一国家琉球王国の成立、対外貿易・外交の状況、近世史の概要、近世の文化、さらに幕末・琉球処分、明治・大正・昭和の様相、沖縄戦、戦後といった通史的な流れを展示し、沖縄の歴史的推移を一望できるよう工夫されている。

自然史展示室（第2室）は、琉球列島の成立および亜熱帯という自然環境に棲む動物・植物を展示しており、また、ヤンバルクイナ・ヤンバルテナガコガネなどの生息する沖縄島北部（俗に山原という）、イリオモテヤマネコの生息する西表島の自然を展示している。

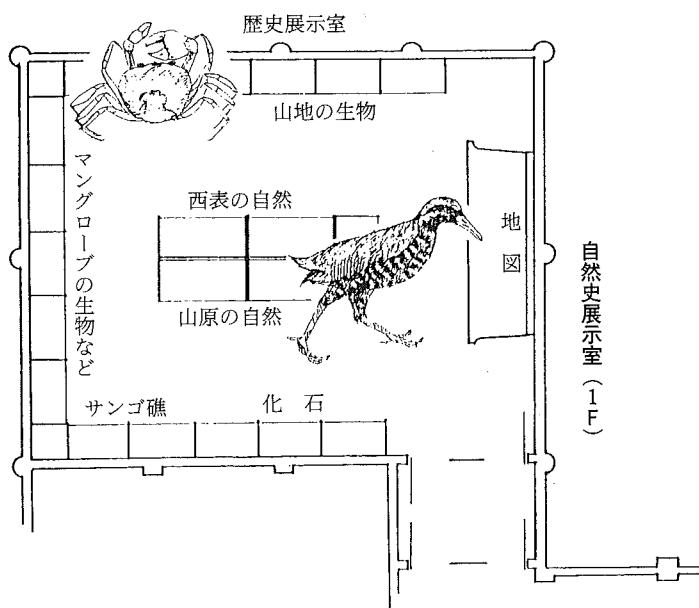
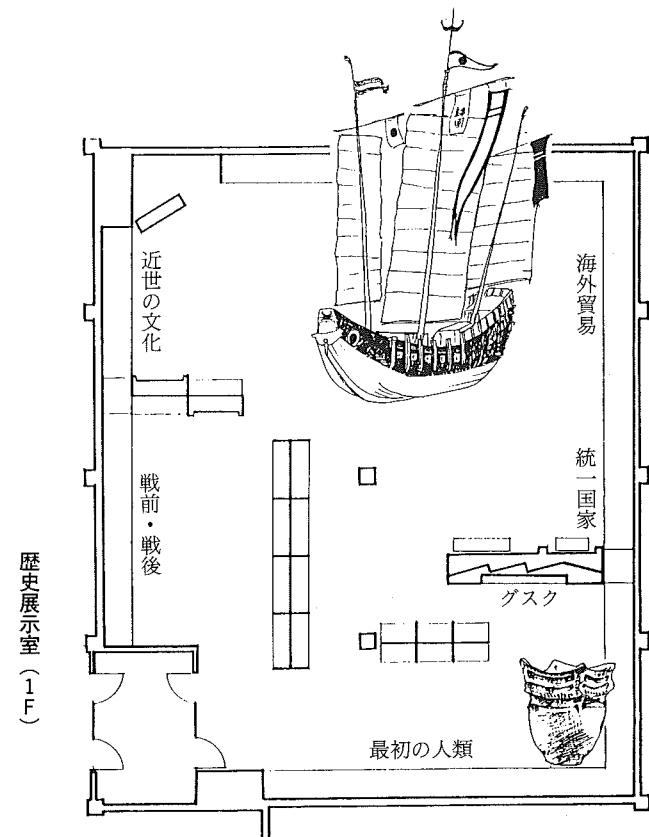
企画展示室は企画展・特別展の時に使用されるが、普段は当館の所蔵する「大嶺薰コレクション」「東アジア・東南アジア民族資料」を常設展示している。

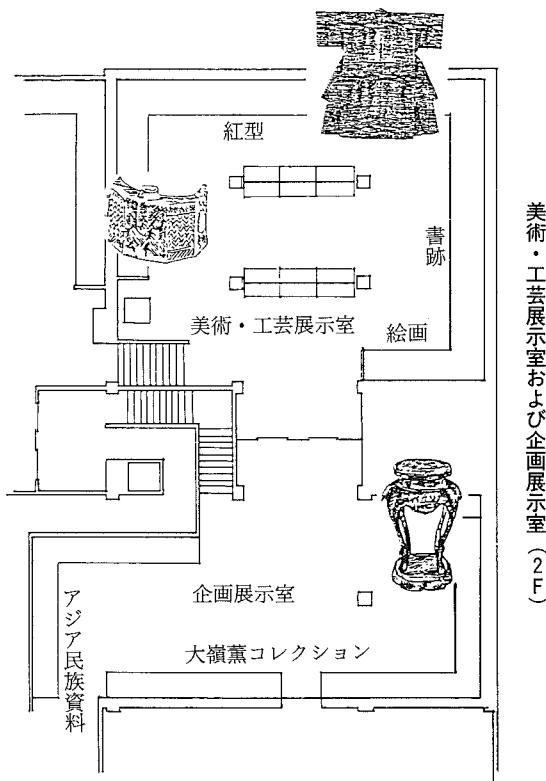
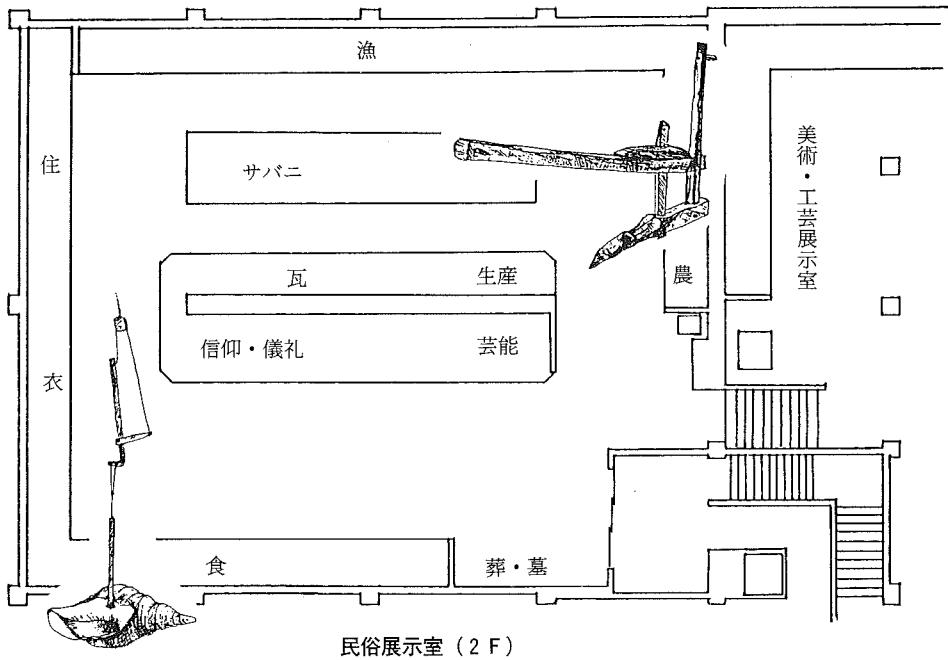
美術工芸展示室（第3室）は、沖縄の代表的な文化資料、例えば書跡・絵画・染織・漆器、陶器などを展示している。

民俗展示室（第4室）は、琉球列島の民俗資料を農業・漁業・衣食住・宗教・芸能・葬墓制などの部門に分類整理して展示している。

なお、1階ロビーには沖縄歴史の象徴的な梵鐘である「万国津梁の鐘」、首里城正殿模型をはじめ2点の扁額が常設展示され、さらには琉球列島の地理的位置を示すための大型地図パネルが常置されている。

以下に、各室の概要を示す平面略図を掲げる。





2 企画展

昨年度に開催した企画展は新収蔵品展のみであった。

昭和60年度新収蔵品展

会期：昭和61年5月13日（火）～5月25日（日） 会場：2階ロビー（現企画展示室）

〔趣旨〕

前年度に寄贈・購入・収集あるいは移管・返還などで得た新資料を一般公開する目的で毎年開催している恒例の企画展である。新資料を紹介し広く活用してもらうことはもとより、資料を提供していただいた方々への感謝の意を込めて開催するものである。

〔展示内容〕

展示スペースに制約があるため、収蔵品のすべてを展示することはできなかった。主な展示品として、絵画では具志堅聖児作の日本画をはじめ沖縄風景絵図、書跡では王文輝の書、徐葆光「七言律詩」、鄭元偉「近江八景」、染織では芭蕉・紺地総縫着物、芭蕉・白地総縫着物、歴史資料では質問本草5冊、安里橋支柱、考古資料では大城グスク採集陶磁器片、民俗資料では中国琴楽譜、厨子甕などを展示。なお、展示レイアウトは次ページの図を参照。

〔展示品目録〕

展示会にあたりパンフレット『昭和60年度新収蔵品展』を作成し、そのなかに主な展示品の写真紹介および新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は『沖縄県立博物館年報』No.19の29～30ページにも掲載されている。

1) 購入の部

美術工芸：徐葆光「七言律詩」、鄭元偉「近江八景」、芭蕉・紺地総縫着物、芭蕉・白地総縫着物、絹・稻妻に花の丸文様衣裳。歴史資料：質問本草全5冊。民俗資料：玩具「凧」「胡蝶凧」「ヤカジ」。

2) 寄贈の部

美術工芸：具志堅聖児作・日本画3点、沖縄風景絵図、王文輝の書、眠り龍、絹紺地格子袷着物、朱塗双龍彫吉祥文螺鈿小卓、黒漆玉取獅子吉祥文螺鈿八角鉢。歴史資料：豊見城按司より福昌寺宛書状、安里橋支柱。考古資料：大里村大城グスク採集陶磁器片。民俗資料：厨子甕、骨壺、中国琴楽譜など。

3) 収集の部

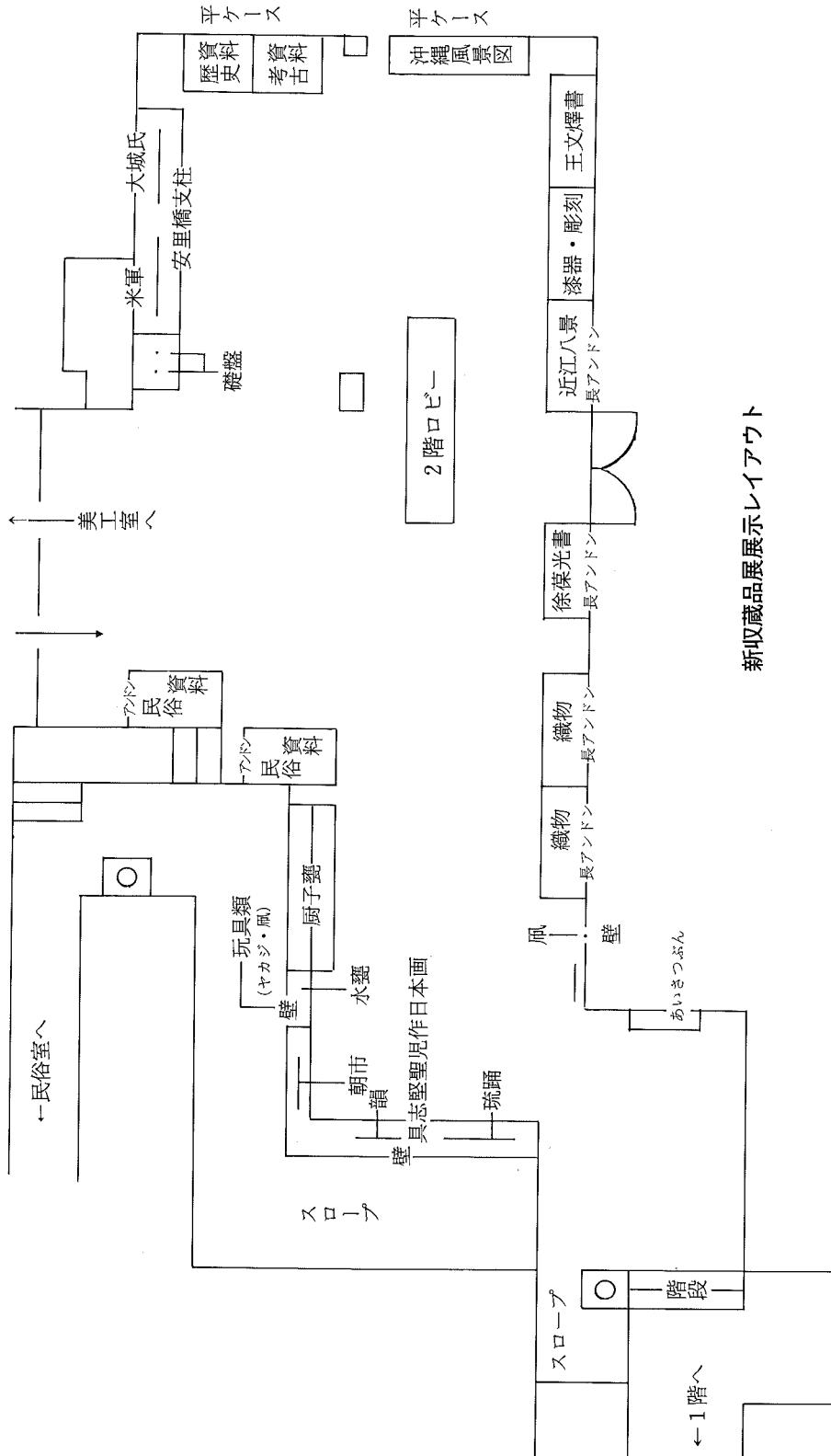
考古資料：多良間村高田海岸採集の磁器片。民俗資料：石厨子、厨子甕。

4) 返還の部

歴史資料：安里橋支柱、礎盤。

〔感謝状の贈呈〕

具志堅聖児氏に感謝状を贈呈したが、氏が東京在住のため贈呈式はなかった。



3 移動博物館

第10回移動博物館

会期：昭和61年6月5日（木）～6日（金）

会場：伊平屋村離島振興総合センター

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・伊平屋村・伊平屋村教育委員会

〔趣旨〕

文化の広域的普及を目的とし、当館の利用の便に恵まれない離島や遠隔地の県民に博物館の通常の活動を公開し参加して貰うという趣旨で始まった「移動博物館」も10回を数える。今回は離島でしかも遠隔地の最北端の村である伊平屋村で実施した。

〔内容〕

展示会：恐竜化石、鳥類の剥製、天然記念物写真、土器、石器、古錢、石碑の拓本
パネル、書跡、絵画、陶磁器、染織、漆器、竹細工、廻、戦前の写真など
(展示品目録参照)

ビデオ放映：「琉球の風物」・「琉球の民芸」・「トンボの愛はハート型」・「黄金の蛹！沖
縄珍蝶図鑑」・「酒だ忍法コノハチョウ」・「東洋のガラバゴス」

講演会

日時：昭和61年6月5日（木）午後4時～6時

場所：伊平屋村立伊平屋中学校体育館

講師および演題：知念 勇（沖縄県立博物館教育普及課長）「考古学から見た伊平屋列
島」、上江洲均（沖縄県立博物館学芸課長）「伊平屋の民俗の特色」、新
納義馬（琉球大学教育学部教授）「植物から見た伊平屋の自然」

〔入場者〕

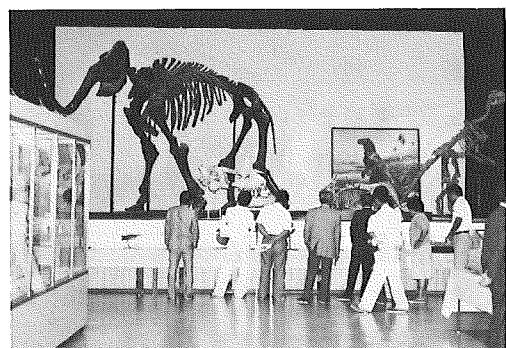
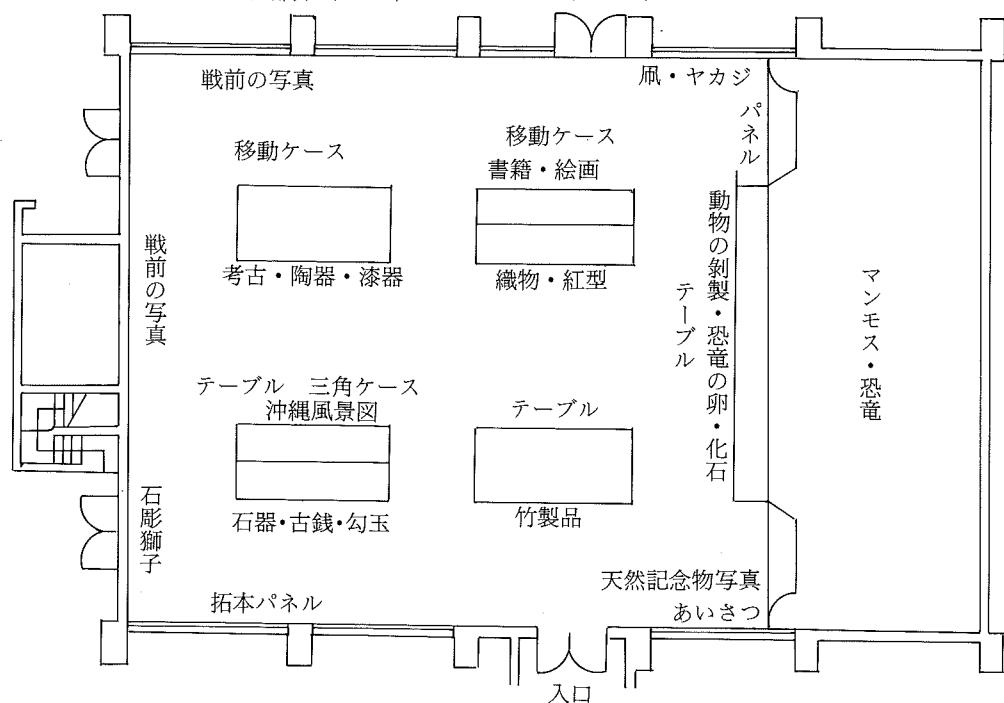
	小人	大人	合計
展示会	213	201	414
講演会	54	126	180
合計	267	327	594

〔予算〕

国庫補助を得て総額2,165,070円で内訳は次のとおりである。旅費382,830円 消耗品費
152,720円 印刷製本費170,000円 通信運搬費1,450,520円

移動博物館展示配置図（伊平屋村離島振興センター大ホール）

フロア部分 (330m²) ステージ (45.5m²)



展示品目録

8 <古 生 物>

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、タルボサウルスの頭骨、タルボサウルスの指趾骨、恐竜の卵の化石、マンモスの大臼歯、世界最古の化石“コレニア”

21 <沖縄の生物>

写真パネル（沖縄の天然記念物〔動物〕12点）、
動物の剥製（リュウキュウイノシシ、サシバ、カルガモ、ホウロクシギ、ヤマシギ、ヒヨドリ、ツルクイナ、ヤンバルクイナ、アカショウビン）

<絵 画>

花鳥図（毛長禧筆）、樹下織婦図（筆者不詳）、沖縄風景図（山崎東里）

<書 跡>

鄭嘉訓（対句）、渡嘉敷兼副（古聖十無益）

<紅 型>

麻・浅地霞に鶴亀松竹梅文様衣裳

<織 物>

芭蕉・麻紺地絹縞紺上衣

<漆 器>

朱漆巴紋牡丹七宝繫沈金食籠台、黒漆山水螺鈿六角食籠、朱漆松竹梅箔繪湯庫、朱漆山水樓閣堆錦重箱

<陶 器>

赤絵花鳥文抱瓶、家紋入り嘉瓶、二彩流筒花生、アンダガーミ、赤絵鶴松竹文鶴首、なまこ釉からから、飴釉流なまこ釉香炉、赤絵撫子文碗、赤絵葡萄蔓文急須

21 <彫 刻>

玉陵石彫獅子（レプリカ）1対

<歴 史>

拓 本

万歳嶺記、たまおとんのひもん、国王頌徳碑、崇元寺之前之碑文（下馬碑）（両面）、比謝橋碑文、山北今帰仁城監守來歴碑記（表面）、総官野国由来記、新修美栄橋碑記（両面）、迎恩（扁額）、善行家風（掛床）

その他

琉球通宝等古錢類、勾玉

<考 古>

港川人頭骨（レプリカ）、荻堂式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、石斧、磨石、
18 敲石

<民 俗>

37

竹製品 かめ型花籠、縄耳付花籠、山形立差花籠、立差花籠、窓の月花籠、蘇鉄差花籠、ナス型花籠、乱れ差花籠、丸竹満月花生、丸竹花台、紙屑入籠、茶碗入籠、盛籠、麻型盛籠、南瓜型花籠、ウーパーラー、二つ籠、蘇鉄差一輪生、流差一輪生、アラバーキ(笊模型)、壁掛一輪生(大)、壁掛一輪生(小)、手付果物盛籠、水切籠、四つ目平ざる、手まり型一輪差(大)、手まり型一輪差(小)、桶型一輪生、文庫、御盆飯籠、竹行李

鳳 篠鳳、八角鳳、フータン、宮古鳳、日の出鳳、ヤカジ鳳、八重山角鳳

玩具 ヤカジ

38

〈戦前の沖縄(写真パネル)〉

首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋武御嶽石門、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、名護港、名護、運天港、源河山の深谷、名護の墓、大井川の峠江、名護の大ガジュマル、屋部川とサキシマハマボウ、崇元寺、山原の田家、渡久地港、中城城跡、本部渡久地、渡久地晚景、競馬、闘牛、市場、農家、サーチャー、葬列、今帰仁小学校の生徒たち、伊江島のウマ、その他

138

IV 教育普及活動

1 博物館文化講座

- 第139回 「おもろさうし解説会」 4月19日（土）
講師：池宮正治（琉球大学教授）
参加者：20名
- 第140回 「洗骨習俗と厨子甕」 5月17日（土）
講師：上江洲均（沖縄県立博物館学芸課長）
参加者：46名
- 第141回 「自然保護講座」 7月26日（土）～27日（日）
講師：池原貞雄（琉球大学名誉教授）、西平守孝（琉球大学教授）、新納義馬（琉球大学教授）、城間英光（沖縄県自然保護課技師）、当山昌直（沖縄県教育厅文化課専門員）
参加者：延44名
- 第142回 「拓本教室」 8月16日（土）
講師：又吉真三（沖縄県文化財保護審議会委員）、崎間麗進（沖縄県文化財保護審議会専門委員）、与那嶺美和子（沖縄県文化財修理技術者協会々員）、上江洲敏夫（沖縄県立博物館学芸員）
参加者：22名
- 第143回 「紅型教室」 8月22日（金）～24日（日）
講師：藤村玲子（染色家）
参加者：21名
- 第144回 「中部のグスクめぐり」 9月7日（日）
講師：知念勇（沖縄県立博物館教育普及課長）
参加者：51名
- 第145回 「沖縄の絵画解説会」 11月29日（土）
講師：神山泰治（琉球大学助教授）
参加者：21名
- 第146回 「織物解説会」 12月13日（土）
講師：与那嶺一子（沖縄県立博物館学芸員補）
参加者：32名
- 第147回 「古錢について」 昭和62年1月24日（土）
講師：嵩元政秀（興南高等学校教諭）
参加者：20名

2 刊行物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格：頁 数	内 容
「新収蔵品展」図録	不定期	1,000	B 5 : 12	新収蔵品を紹介する図録
第10回移動博物館	不定期	1,000	B 5 : 4	展示を紹介したリーフレット
沖縄県立博物館年報No.19	定 期	500	B 5 : 47	前年度の当館の活動状況報告
博物館だよりNo.26	定 期	1,000	B 5 : 4	当館活動の近況報告
沖縄のみじかな帰化植物	不定期	1,000	B 5 : 70	沖縄の帰化植物の種類の紹介
沖縄県立博物館紀要No.13	定 期	1,000	B 5 : 66	学芸員の研究調査報告
ポスター	定 期	1,000	半 切	次年度の当館行事案内
総合調査報告書—伊計島	不定期	1,000	B 5 : 52	学芸員の調査報告書
博物館だよりNo.27	定 期	1,000	B 5 : 4	当館活動の近況報告

V 調査研究活動

昨年度の当館職員の調査研究活動とその成果は以下の通りである。

1 調査研究

宜保榮治郎（副館長）

○沖縄の組踊研究

期 間：昭和58年4月～62年3月

目 的：組踊台本の所在および組踊の分布

依頼機関：沖縄県教育庁（文化課）

本年の実績 沖縄県文化財調査報告書第82号「沖縄の組踊II」で報告書作成

○沖縄三線楽器鑑賞会

期 間：昭和61年8月25日～昭和62年3月（今後も継続）

目 的：戦災により散在している三線の名器の所在及び鑑定をし、沖縄文化の代表的なものとして位置づける

組 織：15名の音楽家により沖縄三線楽器保存育成会を組織し月1回の鑑賞会を行なう

本年の実績 昭和62年3月まで第8回の鑑賞会を持った。次年度も継続する

○宜野座村史編集委員会

期 間：昭和59年9月21日より昭和64年3月まで

依頼機関：宜野座村

目 的：宜野座村誌第3巻（考古・民俗編）の刊行

○名護市屋部字誌編集委員

期 間：昭和60年11月13日～昭和66年3月

目 的：字誌刊行

依頼機関：名護市字屋部

○ハワイ移民調査

期 間：昭和62年3月6日～15日

目 的：ハワイに移民した名護市屋部出身の移民の動機と現状調査

依頼機関：名護市字屋部

○奄美大島瀬戸内町調査

期 間：昭和61年8月16日～21日

目 的：瀬戸内町諸屯で民俗芸能を調査

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

○伊計島調査

期 間：昭和62年2月4日～2月25日

目 的：伊計島の民俗特に野遊びについて
依頼機関：沖縄県立博物館（但し63年へ継続中）

上江洲均（学芸課長）

○国内資料調査委員会（大阪国立民族学博物館）

期 間：昭和61年 6月29日～7月1日（3日間）

目 的：民俗資料（有形）の研究会

依頼機関：国立民族学博物館

○展示指導

期 間：昭和61年 7月3日～7月4日（2日間）

目 的：民俗村の民具類展示の指導のため

依頼機関：海洋博記念公園管理財団

○宜野座村民俗調査

期 間：昭和61年 7月17日～18日、7月23日～24日（4日間）

依頼機関：宜野座村史編集委員会

○東村諸職調査

期 間：昭和61年 7月25日～26日（2日間）

依頼機関：教育庁文化課

○まつり調査、史跡めぐりの指導（伊是名村、伊平屋村）

期 間：昭和61年 8月21日～26日（6日間）

依頼機関：伊平屋村教育委員会、伊是名村史編集委員会

○鹿児島県大島郡瀬戸内町の民俗調査

期 間：昭和61年 9月1日～9月7日（7日間）

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

○国内資料調査委員会（千葉県）

期 間：昭和61年11月20日～22日（3日間）

依頼機関：国立民族学博物館

○伊是名村の民俗調査

期 間：昭和62年 1月25日～26日（2日間）

依頼機関：伊是名村史編集委員会

○久米島の諸職調査

期 間：昭和62年 2月11日～13日（3日間）

依頼機関：教育庁文化課

○鹿児島瀬戸内町の民俗調査

期 間：昭和62年 3月23日～28日（6日間）

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

○伊計島の民俗調査

期 間：昭和62年3月29日～31日（3日間）

知念 勇（教育普及課長）

○ドイツ商船の予備調査

期 間：昭和61年8月4日～8月6日

依頼機関：上野村教育委員会

○宜野座村の遺跡と集落の考古学調査

期 間：昭和61年8月9・10・16・17日（4日間）

依頼機関：宜野座村史編集委員会

○津堅第2貝塚発掘調査

期 間：昭和62年2月5日～3月5日

依頼機関：勝連村教育委員会

○伊計島遺跡調査

期 間：昭和62年3月5日～3月11日

日越国昭（主任学芸員）

○国頭郡天然記念物緊急調査

期 間：昭和61年6月1日～昭和62年3月31日

依頼機関：沖縄県教育委員会

目 的：国頭郡の天然記念物の現状とその保護のための基礎調査

○多良間村植物調査

期 間：昭和62年3月18日～3月20日

目 的：多良間島の環境と植物の生育状況調査

○ケラマジカ遺骨の分布状況調査

期 間：昭和62年3月22日～3月23日

目 的：屋嘉比島において、ケラマジカ保護のため遺骨の分布状況調査

○伊計島植物調査

期 間：昭和62年3月24日～3月26日

目 的：伊計島の環境と植物の生育状況調査

上江洲敏夫（学芸員）

○諸職関係民俗文化財調査

期 間：昭和61年7月～11月

依頼機関：県教育庁文化課

目 的：県内に伝承されてきた諸職関係の伝統的工芸技術を調査（国庫）

結果：昭和62年度に調査報告書刊行の予定

○県内所在家譜調査

期間：昭和61年8月～12月

依頼機関：県教育庁文化課

目的：県内所在の家譜及び関連資料の実体を把握するための調査（国庫）

結果：昭和63年度に調査報告書刊行の予定

○伊計島の歴史調査

期間：昭和62年1月から2月（3回）

目的：伊計島の歴史の全体状況把握のための調査

結果：昭和62年3月報告書刊行

津波古聰（学芸員）

○八重山の織物調査

期間：昭和62年2月～3月

目的：石垣・竹富の博物館・資料館が収蔵している八重山の織物を調査し、調書作成
と写真撮影を行なった

結果：昭和63年度、沖縄の織物について普及書を刊行予定

与那嶺一子（学芸員補）

○伊計島の織物調査

期間：昭和62年1月～2月

目的：伊計島の織物について聞き取り調査

結果：昭和62年3月調査報告書刊行

○八重山地方の織物調査

期間：昭和62年2月～3月

目的：石垣・竹富・与那国博物館及び資料館にある八重山地方の織物について調査

結果：昭和63年度沖縄の織物についての普及書を刊行予定

2 著作論文

宜保榮治郎

○「沖縄の組踊II——沖縄文化財調査報告書第82号」（共著）

上江洲均

○〈書評〉山田武男著『わが故郷アントゥリ』（琉球新報昭和61年6月）

○「沖縄のくらしと文化」（ポプラ社、沖縄の自然と文化シリーズ、昭和61年6月）

- 「沖縄の泡盛」「沖縄の瓦」(小学館『日本民俗文化大系14巻』昭和61年7月)
- 「台湾の清明節見学記」(やちむん会『やちむん』9号、昭和61年7月)
- 〈書評〉塩屋ウンガミ刊行委員会編『塩屋・ウンガミ』(琉球新報、昭和61年9月)
- 「戦後の民具」(『浦添市史』7巻、昭和62年3月)
- 「久高島聞書き」(沖縄民俗研究会『沖縄民俗研究』7号、昭和62年3月)
- 「伊計島の住居の周辺から」(『沖縄県立博物館総合調査報告書』4号、昭和62年3月)

知念 勇

- 「1986年沖縄考古学会の動向—南西諸島」『考古学ジャーナルNo.277』1987年5月 東京
- 「1986年沖縄考古学の動向」『日本考古学協会会報』日本考古学協会 1987年5月 東京
- 「伊計島の遺跡」『伊計島総合調査報告書』沖縄県立博物館 1987年3月
- 「陶磁器」『北谷城跡第2次報告書』北谷町教育委員会 1987年3月

日越国昭

- 「沖縄県国頭地域の現存植生図」沖縄県天然記念物調査シリーズ第25集、沖縄県教育委員会、共著(昭和62年3月)
- 「那覇市小禄全城俗称上ヌ毛の植物」『沖縄県立博物館紀要』13号沖縄県立博物館(昭和62年3月)

上江洲敏夫

- 「御仮屋守日記」『沖縄県立博物館紀要』12号、沖縄県立博物館(昭和62年3月)
- 「伊計島小史」『県立博物館総合調査報告書』IV、沖縄県立博物館(昭和62年3月)

津波古聰

- 孫億筆「松鶴図」・「花鳥図」『沖縄県立博物館紀要』第13号 沖縄県立博物館(1987年3月)

与那嶺一子

- 「沖縄県立博物館の織物II」『沖縄県立博物館紀要』13号沖縄県立博物館(昭和62年3月)
- 「伊計島の織物」『伊計島総合調査報告書』沖縄県立博物館(昭和62年3月)

昭和61年度新収蔵資料目録

寄贈の部

※(学)は学芸資料を示す

分類	品名	数量	寄贈者名	住所
美術工芸	絵画	1	宮城 章子	東京都
	書跡	2	吉戸 直	那霸市
	染織	1	親川 和子	〃
	リ	18	知念 繢弘	〃
	リ	2	〃	〃
	リ	65	池宮 正治	北谷町
	陶器	2	翁長 良明	那霸市
	透影龍文花瓶	1588	天野 ハル	〃
	金城次郎作「綿彫魚文抱瓶」他		大城 定志	東風平町
	鶴松染付香炉	1	吉戸 直	那霸市
歴史資料	漆器	2	富山 嘉頤	〃
	リ	1		
考古資料	古文書	2	山田 尚二	鹿児島県
	典籍	5	宮城 能榮	那霸市
	建築	23	新垣 恒篤	〃
	貨幣	5	大城 立裕	〃
	装身具	1	福治 友一 ファーアー	沖縄市
	写真	42	ストサービ ス合資会社	宜野湾市
	考古資料	1	高良正次郎	那霸市
民俗資料	土器フタ付壺(タイ産)			
	ウミカガソ	1	与那嶺敏雄	今帰仁村
	石製砂糖車	1	石川 清吉	浦添市
	カタッパー・フゾー 他	5	宮城 親志	糸満市
	ンバンムヤー	1	大城 昌栄	中城村
	ユーチ 他	5	金城 瞳仁	那霸市
	一斗壺	1	狩俣 時男	〃
	マンガソ掛け壺型厨子蓋ふた 他	10	渡口 加一	大阪府
	チーバク	1	上原 正重	糸満市
	野村流役員及会員名簿	1	村山 盛一	〃
	蓮機 他	5	下門 秀明	〃
	琴	49	当真カマド	沖縄市
	石厨子	1	久高喜八郎	宜野湾市
	追込み用網	1	福島 勇	鹿児島県
自然	EDISON LANP(レプリカ)	1	W.L. Cisler	米国
	ノグチゲラ雌剥製	1	富山 嘉頤	那霸市
	赤鉄鉱質結晶片岩(ヘマタイトシスト)の母岩 他	24	〃	〃

購入の部

分類		品名	数量
美術工芸	絵画	孫億筆「花鳥図」	1
	リ	孫億筆「松鶴図」	1
	書跡	林鴻年書（巻子装）	1
	リ	李鼎元書	1
	リ	于光甲書「聯句」	1
	リ	鄭章觀書「対句」	1
	リ	鄭德潤書「七言絶句」	1
	染織	桐板白地格子に絣上衣	1
歴史資料		中山詩文集 全2冊	2

収集の部

分類		品名	数量
歴史資料	拓本	円覚寺放生橋欄干の銘	1
	リ	おもろ主取石棺銘書	1
	リ	おもろ主取石棺銘書	1
	近代資料	沖縄県営鉄道（軽便鉄道）枕木	2
民俗資料		墓誌	1

3 所蔵国県指定文化財

国指定文化財重要文化財

昭和62年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 〃	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22冊 2冊	昭48. 6. 6	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工 芸	銅 鐘 (旧首里城正殿鐘)	1 口	昭53. 6.15	県立博物館	沖縄県 〃
	梵 鐘 (旧円覚寺殿前鐘)				
	梵 鐘 (旧円覚寺殿中鐘)				
	梵 鐘 (旧円覚寺樓鐘)				

県指定文化財有形文化財

昭和62年3月31日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻 〃	木彫円覚寺白象並びに趣意書 世 持 橋 勾 欄 羽 目	1 軸1枚 1括	昭33. 3.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵 画 〃 〃 〃	絹本着色花鳥図 (殷元良筆)	1 幅	昭54. 4. 9 〃 昭57. 4. 1 〃	県立博物館	沖縄県 〃 〃 〃
	紙本着色雪中雉子の図 (殷元良筆)				
	紙本墨画竹の図 (殷元良筆)				
	紙本着色奉使琉球図 (朱雀年筆)				
工 芸	三味線江戸与那 聞得大君御殿雲龍黄金簪	1挺 1本	昭33. 8.15 昭33. 3.14	県立博物館	沖縄県 〃
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	3 口	〃	〃	〃
	枝梅竹文赤絵椀	1 口	昭54. 9. 3	〃	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
	梵鐘 (旧靈応寺鐘)	1 口	昭60. 6. 1	〃	〃
	梵鐘 (旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵鐘 (旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵鐘 (旧天尊殿鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵鐘 (旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃	〃
	梵鐘 (旧一品種權現鐘)	〃	〃	〃	〃
	銅鐘残欠 (旧波上宮朝鮮鐘)	〃	〃	〃	〃
典 籍	評定所格護定本 〃 中山世鑑 中山世譜	6 冊 19冊	昭31.12.14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
書 跡	程順則の書	1 卷	昭42. 4.11	県立博物館	沖縄県
古 文 書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1 幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書	1 卷	昭49.11.11	〃	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1 幅	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅	昭56. 3.20	〃	〃

VII その他の活動

1 資料貸出

- ① 歴史：首里城正殿前龍柱残欠 2 点
期間：昭和61年8月1日～8月31日
主催：中日新聞本社
名称：鎮魂・戦火に散った青春展
会場：松坂屋本店7階大催事場
- ② 歴史：社壇万寿寺石獅子 他6点
期間：昭和61年10月5日～昭和63年10月4日
主催：沖縄県立平和祈念資料館
名称：常設展示
会場：同館
- ③ 考古・歴史・美術工芸・民俗：伊波式土器他137点
期間：昭和61年10月6日～12月19日
主催：埼玉県立博物館
名称：特別展「海上之邦おきなわ」
会場：同館
- ④ 美術工芸：藍染上布他4点
期間：昭和61年11月14日～11月19日
主催：沖縄タイムス社・琉球新報
名称：「染織の美」顧彰四人展
会場：沖縄タイムスホール
- ⑤ 美術工芸：琉球切手原画「松竹梅」他15点
期間：昭和61年11月26日～12月1日
主催：沖縄郵趣連盟
名称：1986年全琉切手展
会場：那覇東郵便局
- ⑥ 考古：港川人骨1個体（レプリカ）1点
期間：昭和62年1月29日～62年2月20日
主催：石垣市立八重山博物館
名称：人類の歩み展
会場：同館
- ⑦ 写真パネル：大塚勝久撮影「海晒し」写真パネル
期間：昭和62年2月13日～2月14日
主催：NHK沖縄放送局
名称：NHK「沖縄730」
会場：同局
- ⑧ 考古：荻堂式土器2点
期間：昭和62年2月17日～63年3月31日
主催：国立歴史民俗博物館
名称：日本文化のあけぼの
会場：同館
- ⑨ 美術工芸：義村朝義作「山水図」他2点
期間：昭和62年3月9日～4月5日
主催：那覇市
名称：那覇近現代美術展
会場：那覇市民ギャラリー

2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、例年定期的に年2回の燻蒸を行っているが、昨年度は1階収蔵庫・地下収蔵庫・首里城正殿模型や扁額の他に2階収蔵庫をも含めたため予算の関

係上年1回の実施となった。燻蒸場所は前記の各収蔵庫と模型・扁額をメチルプロマイドによって行い、その他展示室、事務室、講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除を行った。燻蒸後は第1室と第3室等の展示替えを行った。なお、2階収蔵庫は昭和58年度に展示室を収蔵庫に替え、主に漆器等の資料を保管している。燻蒸は昭和58年度の3月に行つたが、昭和59年度と昭和60年度は予算の関係で実施していない。

3 沖縄県博物館協会

沖縄県博物館協会は昭和52年7月に結成されてから今年で10年目を向かえた。その間毎年一回の総会と二回の研修会を行ってきた。初期の頃の研修では、各館園の現状と課題、そして地域と博物館との関わりをテーマにした各館園の報告や問題提起などが中心であった。それに対し、最近の研修では各館園の「展示」に関する報告や問題提起と「博物館の鉄関係資料の保存」や「博物館美術工芸資料の保存」などの実技指導などを内容としたものに変わってきた。近年県内の市町村を中心に、博物館施設の建設計画が相次いでおり活気を呈している。ちなみに現在博物館建設計画を進めている市町村は、平良市、浦添市、久米島具志川・仲里の両村、宜野湾市、今帰仁村、宜野座村、具志川市などがある。これらの市町村は準備室を設けて進めており、沖縄県博物館協会にも加盟している。

現在33団体の館園および前述の博物館建設計画中の市町村教育委員会と16名の個人会員が加盟しており年々増加の傾向にある。年2回行われる研修会も毎回参加者が増加の傾向にある。昭和62年5月に当館で行われた研修会では、73人の会員が参加した。

4 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は昭和55年「県立博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかること」を目的として、結成された。その間博物館の事業に積極的に参加し、独自の講演会や県内各地の史跡や伝統工芸所などの見学などをを行ってきた。また、昭和60年度からは、海外研修旅行も実施され活動内容も充実してきた。当初は30名足らずの会員だったが、年々増加し昨年度は200名を突破した。昭和61年度に実施された事業は次のとおり。

- ① 常設展示解説会「美術工芸室」、参加者18人、昭和61年7月19日（土）、講師：津波古聰・与那嶺一子（学芸員）。
- ② 台湾研修旅行、参加者25人、昭和61年11月13日～11月16日。
- ③ 「津堅島と久高島の史跡めぐり」、参加者43人、昭和61年7月12・13日。
- ④ 「首里城跡めぐり」参加者52人。
- ⑤ 「中部のグスクめぐり」、参加者52人、昭和61年10月4日（土）。
- ⑥ 「陶芸教室」、参加者24人、昭和61年7月27日・8月2日、講師：宮城勝臣。その他、沖縄のトンボ、紅型ハガキ、機関誌「博友」創刊号、「赤い瓦」などの発行。

VIII 日誌抄 (昭和61年4月1日～昭和62年3月31日まで)

- 4月1日 人事異動、定年退職館長大城立裕、主事仲里富代高等学校教育課へ転出、新館長大城宗清県立図書館長より、主事玉代勢理子県立図書館より転入。
県立芸大教授柳悦孝氏来館。
- 2日 島袋芳子（那覇市）氏より終戦直後の写真17枚寄贈を受ける。
- 3日 歴史学者ジョージ・H・ケア氏（米国）来館。
- 8日 沖縄国際交流財団専務理事嘉陽宗蔭氏来館。
- 9日 元館長大城徳次郎氏来館。
- 10日 新社会教育課長津留健二氏来館。
- 15日 友の会幹事会
- 16日 日本芸術院会員富永直樹氏来館。
- 18日 熊本市立熊本博物館長西岡鉄夫氏来館。沖縄開発庁振興四課船山力氏来館。
- 19日 第139回文化講座「おもろさうし」講師：池宮正治氏（琉球大学教授）。
- 21日 沖縄開発庁振興第四課専門官舌津一良氏ほか1名来館。
- 28日 社会教育連絡協議会（於青年会館）。
- 29日 天皇誕生日につき、教育長命令により開館。
- 5月11日 日本石材協会々長中村秋好氏他2名、石の道具調査のため来館。
- 12日 沖縄県博物館協会理事会。
- 13日 「新収蔵品展」開催（26日まで）。
- 14日 日生財団助成による「沖縄県立博物館総合案内」編集会議（於大阪）。
福地友一氏（沖縄市）より手鏡の寄贈を受ける。
- 16日 在沖米軍司令官デイ氏来館。
- 17日 第140回文化講座「民具解説—洗骨習俗と厨子甕」講師：上江洲均（学芸課長）。
- 22日 九州博物館協議会総会（於熊本）。
埼玉県立博物館学芸課長内藤勝雄氏他1名、特別展の打合せのため来館。
- 24日 久米島具志川村、仲里村教育委員一行15名来館。
- 27日 金秀建設から「安里橋支柱」「円覚寺礎盤」その他古材古瓦の寄贈を受ける。
- 6月3日 博物館友の会理事会。
農林省砂糖類課長紀内祥伯氏他3名来館。
- 5日 第10回「移動博物館」伊平屋村で開催（展示、文化講座、映写会）6日まで。
- 12日 石垣市立八重山博物館長波名城泰雄氏来館。
- 13日 沖縄県博物館協会総会並びに研修会（於玉泉洞）。
- 22日 厚生省援護課長来館。
- 23日 煙蒸及び展示替え。（30日まで）
- 27日 総合案内撮影。（7月3日まで）

- 7月4日 展示室改装工事設計入札。
- 6日 埼玉県立博物館特別展「海上の邦おきなわ」の撮影。(9日まで)
- 8日 中国浙江省美術協会一行10名来館。
- 12日 博物館友の会宿泊研修。(津堅島 久高島へ。13日まで)
- 26日 第141回文化講座「自然保護講座」講師：城間英光（県自然保護課）、当山昌直（県文化課）、西平守孝（琉球大学）。
- 27日 第141回文化講座「自然保護講座」講師：新納義馬（琉球大学）、池原貞雄（琉球大学）。
- 29日 学芸員実習生4名受入れ。(8月8日まで)
- 8月2日 中部新聞社主催「語り継ぐ昭和史」展へ資料2点貸出し。(8月31日まで)
- 8日 当真カマド氏（沖縄市）より民具の寄贈を受ける。
- 12日 大嶺コレクション中から「ウルマ新報」第1号を発見。
- 14日 知念績弘氏（那覇市）より終戦直後染めたフトンカバーの寄贈あり受付ける。
- 16日 第142回文化講座「拓本教室」講師：又吉真三（県文化財保護審議委員）、崎間麗進（県文化財保護審議会専門委員）、与那嶺美和子（県文化財修理技術者協会）上江洲敏夫（担当学芸員）。
- 19日 金達寿氏（作家）来館。
- 22日 第143回文化講座「紅型教室」講師：藤村玲子氏（染色家）。(24日まで)
- 26日 台風のため閉館。
- 28日 「天野コレクション」搬入作業。(29日まで)
- 30日 栃木県立博物館学芸部長尾島利雄氏来館。
- 31日 駐日中国大使来館。
- 9月1日 展示室改装工事のため閉館。(10月31日まで)
- 3日 鹿児島県名瀬市教育長屋宮忠仁氏、歴史民俗資料館準備局長千田秀弘氏来館。
- 4日 九州管区警察局長木村武氏来館。
- 5日 伝統工芸指導所研修生11名、織物資料見学のため来館。
- 7日 第144回文化講座「中部のグスクめぐり」講師：知念勇（教育普及課長）。
- 8日 石垣の一部積み替え工事。
- 9日 展示室改修工事入札。
- 11日 比嘉賀幸氏（那覇市）から厨子甕20点、上原正重氏（糸満市）から漁具1点の寄贈があり受付ける。
- 12日 沖縄県博物館協会研修会。(於本部町、13日まで)
- 13日 富山嘉顕氏からノグチゲラ剥製標本、および朱漆巴紋大櫃の寄贈があり、受付ける。
- 17日 イリオモテヤマネコの剥製標本（一頭）が、文化課から移管される。
- 24日 2階正面タイル改修工事始まる。

- 30日 資料評価委員会開催。
- 10月 6日 埼玉県立博物館へ貸出す資料の梱包作業始まる。
- 7日 ペリー提督へ贈った護国寺の梵鐘の返還についての会議。(於教育庁)
- 16日 宮内庁職員 2名来館。
- 21日 吉戸直(那覇市)氏から美術・工芸資料3点の寄贈あり。
- 24日 埼玉県立博物館主催の「特別展海上の邦おきなわ」開会式。
館長ほか2名出席。
- 27日 三笠宮殿下御夫妻ご来館。中国故宮博物院楊副院長他2名来館。
- 28日 総合案内撮影。(二次)
- 29日 展示改装工事の検査。
- 11月 1日 常設展示オープン。
- 2日 首里文化祭のため午後3時より正面道路歩行者天国。
- 3日 「文化の日」につき開館。「円覚寺の鐘」を8時30分まで市民に開放。渡嘉敷勝平氏より「沖縄本島絵図」の寄贈あり。
- 4日 監視代休につき展示部門は休館。県広報課がPR映画制作のため展示室を撮影。
- 8日 埼玉県立博物館主催の特別展へ出演の舞踊団引率のため副館長出発。
- 9日 博物館友の会「中部グスクめぐり」を実施。
- 13日 博物館友の会「台湾視察旅行へ出発」(5日間)。
- 18日 日越国昭、与那嶺一子東京へ学芸員研修のため出発(12月9日まで)。
- 19日 不発弾処理の説明会へ副館長と平田技師出席(久場川集会所)。
- 20日 国頭村教育委員一行が資料館建設の視察のため来館。
- 25日 粟国村教育委員一行が来館。
- 28日 首里城正殿跡から出土した不発弾の処理のため、午後1時30分より臨時休館。
- 29日 第145回博物館文化講座「絵画解説会——琉球の絵画」講師:神山泰治氏(琉球大学助教授)。
- 12月 2日 ミュンヘン大学学長ルドルフ・セイツ氏来館。
- 3日 米国大使館職員来館。
- 5日 中国芸術研究院の戴淑娟氏他5名来館。
- 12日 天野鉄夫氏コレクション1588点の贈呈式(於教育長室)。
- 13日 第146回文化講座「織物解説会」講師:与那嶺一子(学芸員補)。
- 17日 埼玉県立博物館の原田管理部長ら来館。特別展「海上の邦おきなわ」へ貸与した資料返納のため。
- 23日 高倉の周辺整備作業。
- 1月 10日 大蔵省銀行課長他4名来館。
- 12日 勝連町仲与根教育長他4名、埋蔵文化財発掘依頼のため来館。
- 13日 九州各県検事長一行14名来館。

- 14日 下門秀明氏（糸満市）から製糸機一式の寄贈あり。
- 19日 沖縄県博物館協会理事会（於当館）。
- 23日 大島郡和泊町（鹿児島県）教育委員会一行6名来館。
- 24日 第147回文化講座「古錢について」講師：嵩元政秀氏（興南高校教諭）。
- 27日 消火訓練（午後3時より）。
- 30日 那覇市古波蔵の県家畜衛生試験場より「沖縄県営鉄道（軽便鉄道）の枕木2本」を收集。
- 2月2日 韓国の服飾研究家高女史一行12名来館。
- 4日 文部省高村教育官他1名来館。
- 5日 知念教育普及課長津堅島の埋蔵文化財発掘指導へ（2月中）。
- 15日 国立台湾大学葉達雄氏、東海大学張勝彦氏来館。
- 18日 米国総領事夫人他2名来館。琉球新報社より「人間国宝金城次郎」作品調査のため5氏来館。
- 19日 会計監査（20日まで）。
- 3月4日 博物館協議会（新館構想基本計画の件など）。
- 18日 オランダ、グローニンゲン大学A・T・クラソン女史来館。平良民子氏より高倉の寄贈があり、解体はじまる。
- 26日 マレーシア大使夫妻一行来館。第5回京都府婦人の船、沖縄研修のため京都府知事荒巻禎一氏ほか来館。

XI 関係条例規則抄録

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日 条例第24号)

最終改正 昭和61年3月29日条例第14号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)

第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)

第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号)

最終改正 昭和61年7月1日教育委員会規則第5号

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関する事。

- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

- (1) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日） （教育委員会規則第13号）

〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに分布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現状を明らかにしておかなければならぬ。

（施設設備の亡失）

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

（警備防災の計画）

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 慽靈の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則 (昭和53年9月28日教育委員会規則第5号)

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	
沖縄県立博物館長 殿	昭和 年 月 日
申込者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 時価見積額	7 寄贈の理由
8 寄贈の理由	

受諾書	
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
受 昭和 年 月 日	寄託期間 昭和 年 月 日
	6 資料の所在地 沖縄県立博物館長

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書	
沖縄県立博物館長 殿	昭和 年 月 日
申請者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 寄託期間	昭和 年 月 日から 昭和 年 月 日まで

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書		昭和 年 月 日
殿	沖縄県立博物館長	
昭和 年 月 日	受託申請の件について 記	
では、下記により受託します。		
1 種別		
2 作者名		
3 作品名		
4 製作年月日		
5 附属品		
6 受託期間	昭和 年 月 日から	昭和 年 月 日まで
7 備考		

第4号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書	
沖縄県立博物館長 殿	昭和 年 月 日
申請者氏名 _____ 電 話 _____	印
下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願いします。	
記	
1 使用者	団体名 _____ 及び 代表者名 _____ 印 職業 (_____)
2 使用目的	住 所 _____ 電話 _____
3 使用する施設：1 ホール	2 臨時陳列室
4 使用する日時及び期間	自：昭和 年 月 日 午 時 分 () 至：昭和 年 月 日 午 時 分 () 日間 _____
5 予定参加人員 人	
6 その他必要な資料（プログラム等）	
7 許可書	月 日付申請の() 使用の件、申請どおり許可します。 昭和 年 月 日 沖縄県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）
（教育委員会規則第29号）

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

（委員）

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

（会議）

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（費用弁償）

第7条 委員は、その職務を行なうために必要とする費用の弁償を受けることができる。

（庶務）

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日)
(条例第37号)

最終改正 昭和62年4月1日条例第24号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の徴収)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認められる者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和59年3月31日条例第16号抄)

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

3 この条例は、昭和62年4月1日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料) (第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報 No.20

昭和 62 年 8 月 31 日 発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

〒 903 TEL : 0988-84-2243

印 刷 文進印刷株式会社

住 所 沖縄県那覇市上間 567

TEL : 0988-55-2323(代)